

第1回学校評議員会・学校関係者評価委員会まとめ

日 時：令和8年7月7日（火） 午前10時00分から午前11時30分 於校長室

出席者：加藤 雅久 氏（東海学園大学 学事部 担当部長）
加藤 俊春 氏（（有）日進書房、同窓会）
内藤 幹洋 氏（日進市立日進東中学校長）
安彦 直美 氏（三ヶ峯台自治会長）
近藤 武志 氏（前PTA会長）
猪子 由紀子 氏（PTA会長）

内 容 校長あいさつ
自己紹介
授業視察
近況報告
意見交換
校長謝辞

委員からの意見等

- ・附属中学校は一人ひとりに寄り添った支援に重点を置いて取り組んでいることが伝わった。34通り（附属中学校の生徒数）の生徒に合わせた支援をすることから先生方の負担が心配ということと学校を動かしていく上で校内での情報共有が大切と考える。目に見えない力がついたかを生徒自身が実感できる取り組みが必要となってくる。
- ・（1クラスの人数から）他の学校と比べると子供たちは恵まれている。子供の表情も前向きでいい方向で学校運営ができていないか。一方、先生方が神経をすり減らしていないか心配。附属中学校と高校、内進生と高校から入学する生徒との行事がうまく運営していけるとよい。
- ・日進高校に来るたび進歩している、前進していると感じる。地域の中学校から日進附属中学校はかなり注目されている。（送り出した）卒業生への寄り添った指導から成長と少人数の中でいきいきしたよい変化が感じられた。
- ・自由で楽しそう。実際の校内の様子を見てイメージが変わった。時代の変化に対応できている。先生の頑張りも感じられた。
- ・（意見が活発な授業の様子から）附属中学校の生徒は、小学校の時、不登校だったとは思えない様子であった。附属中を盛り上げてほしい。教員が疲れていないか心配。
- ・中学の時、他の生徒と同じことができないわが子であったので「学校からの連絡イコール悪い知らせ」であった。日進高校はそのようなわが子に対し向き合ってくれている学校。他の生徒に一人ひとりに合った対応をしてくれている学校。感動している。